

講義動画の活用で効果的な文法学習を

福崎伍郎



◆はじめに

私は、駿台予備学校、河合塾、東進ハイスクールで英語講師を勤めた後、2016年から代々木ゼミナール教育総合研究所の主幹研究員として、英語教育プログラムの開発の他、教員研修や高校生対象の講演・講義などの仕事に従事しております。

ちょうど、東進ハイスクールから代々木ゼミナールに移るタイミングで、大修館書店から『ジーニアス総合英語』の編集委員にならないかというお話をいただきました。すでに決定している委員の方々の顔を拝見しますと、大学や高校の公教育の場で活躍されている先生方ばかりで、自分のような一介の予備校講師にその任が勤まるか一抹の不安もありましたが、「何事も勉強」と思い引き受けさせていただくことにしました。

2年近くにわたり、何度も会議を重ねて、お互いに原稿を見せあって切磋琢磨しながら、原稿を書き上げ、最後は編集主幹の先生方の徹底したチェックと修正・加筆によって、『ジーニアス総合英語』は完成したのです。

◆受信と発信の両面に役立つ参考書

出来上がった『ジーニアス総合英語』を見ると、章立てなどの全体構成の点では類書との違いはあまり伝わってこないかもしれません。しかし、特定の項目を選んでじっくりと読んでみると、英語4技能時代をリードする参考書であることがわかりいただけると思います。

私は昨年、この新しく生まれた参考書の素晴らしさをお伝えするために講演をさせていただく機

会がありました。そのときに1例として選んだのは had better の用法でした。これは、当日の参加者が必ずしも英語を専門とする方々ではなかったため、比較的単純で誰にでも分かりやすい（と思われる）事項の方がよいだろうと考えたからでした。『ジーニアス総合英語』では、had better の解説に1ページが充てられています。このたった1ページの中にどれだけ有益な情報が凝縮されているかをお話したのです。

had better の解説で述べられているポイントを列挙しましょう。

- ① had better は、日本語では「～すべきだ・した方がよい」と訳されるが、「そうしなければ悪いことが起こる」という含みがある。
- ② 特に You had better ...は、言い方にもよるが、「警告」や「脅し」の意味になるので、立場が上の人や年上の人に使うのは避けた方がよい。
- ③ You had better ...は、短縮形を使って You'd better ...と表すのが普通である。会話では、発音の軽い d が脱落して You better ...のように言うことがある。
- ④ 否定形は、had not better ...ではなく had better not ...となる。
- ⑤ You'd better ...を下降調（↘）で発音すると「忠告」になるが、下降上昇調（↘↗）で発音すると「警告・脅し」になる。
- ⑥ You had better ...は強い調子の「警告・

脅し」になることがあるので、「忠告」を表すには I think you should ... のような表現を使った方が安全である。

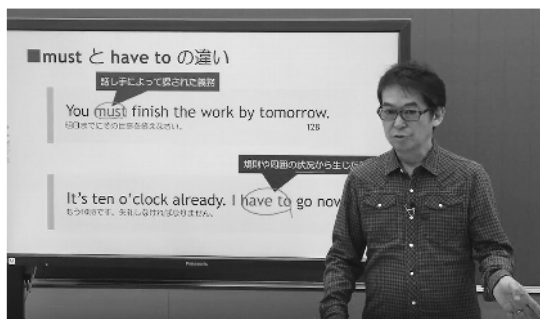
いかがでしょうか？ たった1ページに6つものポイントが解説されています。

「一事が万事」と言いますが、この1例からもご推察いただけるように、『ジーニアス総合英語』は、従来型の学習参考書と比べて、文法と語法についての解説が詳しいのはもちろんのこと、英語の4技能、言い換えれば、英語での受信と発信の両面に役立つ有益な情報 (had better で言えば②③⑤⑥) も随所に「抜きかりなく」盛り込まれている、というのが大きな特長となっています。

◆文法理解を促進する講義動画の活用

『ジーニアス総合英語』が出版されてしばらく経った頃、各章の基本編の解説を映像で収録し、ネット配信してはどうかという企画が持ち上がりました。実は、この企画を初めて口にしたのは、かく言う私だったと記憶しておりますが、編集部も大いに乗り気になり、「映像で図解などを駆使しながら、分かりやすく説明すれば、英語の苦手な高校生でも、英語の学び直しをしたい社会人も、要点がスッキリ頭に入ってくるのではないか」という意見が大勢を占めたのでした。確かに、英文法や語法を参考書だけで独学するのは時間もかかり容易なことではありません。そこに、学習の伴走役としての映像コンテンツが加われば、基礎的な事項の概要とポイントは映像を見ながら予習し、それを参考書で再確認し、基礎がしっかりと固まったところで発展的な内容の学習に移っていくことが可能になります。

問題は、どのようにして質の高い映像コンテンツを制作するかでした。会議室などでホワイトボードに板書しながら解説している姿を撮影するというような形では、(講義としての臨場感はあるかもしれませんが) 映像としてのクオリティにも



限界があり、視覚に訴えながら情報を整理してわかりやすく伝えるという映像授業ならではの長所がいかせません。せっかくやるのであれば、電子黒板などを利用しながら、プロのスタッフによる本格的なスタジオ撮影をしたいものです。そこで、私が勤務する代々木ゼミナールと協議し、スタジオとスタッフの提供を受けて、『ジーニアス総合英語』専用の映像コンテンツの制作を行うことになったのです。

映像コンテンツは、1コマ20～30分で、各章の基本編を撮影していききました。『ジーニアス総合英語』は、全部で24章ありますから、全24回分の映像コンテンツを制作することになります。

各章の基本編の内容を項目毎に整理して、一目でわかるようにパワーポイントにまとめていく。この作業だけでも、かなりの時間を要しました。しかも、出来上がったパワーポイントは、必ず編集主幹の先生に目を通していただいて、内容と表現の両面からチェックを受けて書き直す。やる以上は、しっかりとした良質のコンテンツを作りたいという編集部の熱意と意気込みがひしひしと伝わってきました。

私は、この映像講座で講師を務めさせていただきましたが、短い時間内にいかに効率よく解説するか大変苦労しました。おかげで、当初意図した以上のものに仕上がったと自負しております。『ジーニアス総合英語』の書籍と合わせてご利用・ご推薦いただければ幸いです。

(ふくざき ごろう・代々木ゼミナール講師)